

令和4年度 須坂市立須坂支援学校 学校評価のまとめについて

須坂市立須坂支援学校長 竹村 信之

大寒の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、今年度の学校評価アンケートの結果を以下のようにまとめましたので、ご報告いたします。ご多用の中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。各項目の評価や、いただいたご意見等を真摯に受け止め、今後の学校運営に生かしてまいります。今後も、子どもたちの「今と将来の生活の充実」に向け、保護者の皆様とともに考え、諸活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【学校自己評価の結果より】

A「そう思う」 B「おおむねそう思う」 C「そう思いにくい」 D「そう思わない」

1 目標・学校像

評価項目		A	B	C	D
(1)児童生徒は、学校へ行くのを楽しみにしている。	保護者	64%	32%	0%	4%
	職員	58	42	0	0
(2)学ぶ場として須坂支援学校を選んでよかった。児童生徒の学ぶ場として相応しい学校である。	保護者	82	14	4	0
	職員	39	61	0	0
(3)学校教育目標（めざす子どもの姿：「自分から、自分で、せいっぱい」自分らしく輝く子ども）の達成に向けた支援がなされている。	保護者	67	29	4	0
	職員	28	72	0	0

【保護者】

- ・子どもにとって学校は一番からだを動かしたり遊べる楽しいところだと思います。年齢が上がるにつれてその傾向が強くなってきました。苦手なことがあるでしょうが、学校でチャレンジできるのはありがたいです。
- ・本人の時間の流れに合わせてゆっくりやることで、いろいろなことを自分で理解した上でできるようになった気がする。
- ・一日のスケジュールを覚えて、学校へ行くと理解している。もし嫌な場合は車から降りないと思います。
- ・家から出るのを渋っていても、学校について先生に会うとニコニコしていることが多いので、楽しい場所なんだあと意識しているのが感じられて、安心して通わせています。
- ・毎日「楽しい」中にも、しっかりと訓練になることが取り入れられていて、着実に少しずつ生きる力がついていてるのを感じます。何より子どもが学校へ行くのを楽しみにしている姿を見ていてうれしいです。
- ・楽しく通える学校で、先生方に感謝しています。
- ・本人も学校へ行くのをとても楽しみにしています。先生方によく支援していただいているので感謝です。
- ・小学部のうちは手厚い支援を受けられそうとを感じるが、中学部を卒業した先の生活が見えていないので、不安があります。
- ・時間がないと靴や靴下をはかせてあげてしまったりすることが見られ、自分でできるように見守る支援になってないかと思うことがあります。
- ・本人を尊重してくださる姿勢はありがたいですが、先生方がやってくれることも多いなと感じています。口頭や自主性でのサポートがもっとあると良いなと思います。

【職員】

- ・目指す子どもの姿に向けて、まだまだ支援の方向を考えていきたいと思う。
- ・「自分から、自分で、せいっぱい」の目標を打ち立て、あくまで子どもたちの思いを出発点に教育課程も授業も組み立てていこうという雰囲気が学校全体にあり、とてもよいと感じている。
- ・年々、子どもも多様化し、今まで行ってきた活動が今までどおりできにくいこともあるが、大人の都合や環境等で左右せず、子ども一人一人の可能性を引き出していけるようにしたい。
- ・今後も、小学校と併設されているよさを活かせるようにしたい。
- ・「自分から、自分で」が達成できるように、自分から、自分で取り組めるような支援を常に考えてきた。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・「本校を選んでよかった」の項目については、昨年度に引き続き80%を超す保護者から、A「そう思う」の評価をいただいた。児童生徒の願いや思いを大事に、一人一人が主体的に取り組む学校生活づくりに努めてきたことの成果と捉えたい。一方で、「学校へ行くのを楽しみにしている」については、A「そう思う」の割合が昨年度の81%から減少し、B「おおむねそう思う」が増加する結果となった。保護者の皆様のコメントでは、学校へ行くことを楽しみにしている児童生徒の姿を伝えていただいているが、「おおむね」とした保護者が増えたこと、D「そう思わない」保護者が1名いたことを重く受け止めた。保護者との対話を大切に、どの児童生徒についても登校を楽しみにする姿が見られるよう、児童生徒主体の生活づくりにさらに努めていきたい。

- ・今年度、学校教育目標を一新したことに伴い、新たに設けた(3)の項目については、A B合わせた保護者の肯定的評価は96%となった。本校の支援の方向を肯定的に受け止めていただいていることに感謝したい。今年度、職員は、常に本校のめざす子どもの姿を念頭に置いて教育活動を行ってきたが、その子にとっての「自分から、自分で、せいっぱい」の具体的な姿や、その実現のための具体的な手だてについて、保護者と担任とで十分に話をしながら共有し、共に取り組んでいく面をさらに高めたい。今後も、引き続き地域で学ぶよさを生かした学校生活、児童生徒が自らの力を十分発揮し、成就感や達成感、満足感などを感じながら個々の可能性を伸ばす学校生活となるようにしたい。

2 人権を尊重した接し方・学校づくり

評価項目		A	B	C	D
(3)人権に配慮した、指導・支援がなされている。	保護者	75%	21%	4%	0%
	職員	37	63	0	0
(4)いじめや体罰がない学校環境となっている。	保護者	79	21	0	0
	職員	63	37	0	0

【保護者】

- ・問題はないと思います。
- ・一人一人の特性に配慮して運営していただいています。
- ・先生方はやさしく子どもたちに接してくれていると思います。
- ・ありのままの子どもを受け入れて、子どもの特性に合ったやり方で接してくださるので、安心できます。
- ・いじめや体罰がない学校環境で、安心して子どもを学校に通わせることができます。

【職員】

- ・職員の人手不足で、余裕がないときも、丁寧な支援を心がけ、その子の可能性を最大限発揮できる状況を整えていきたい。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・「いじめや体罰のない学校」の項目について、A「そう思う」の評価が、保護者、職員ともに昨年度より高くなった（保護者69%→79%、職員25%→63%）。「人権に配慮した指導支援」「いじめや体罰のない学校」の項目について、A B合わせた保護者の肯定的評価はほぼ100%。日頃から、一人一人に寄り添った指導・支援を心がけていることが、この評価につながっていると考えられるが、児童生徒の笑顔の毎日が続けていくためには、常に職員が自分の言動を見返しながら、人権感覚を磨いていく必要がある。今後、さらに人権感覚に配慮した指導支援に努め、保護者が子どもの姿と重ねながら確信をもってA評価を選ぶことができるようにしたい。

3 個に応じた指導

評価項目		A	B	C	D
(5)個別の指導計画は、本人・保護者の願いを十分反映している。	保護者	64%	32%	4%	0%
	職員	37	63	0	0
(6)個別の指導計画に沿って、日々の授業が実践され、授業内容はお子さんに合っている。	保護者	39	61	0	0
	職員	21	79	0	0

【保護者】

- ・先生方は子どもの今現在の様子をよく見てくださり、今できそうな新しいことをご指導いただいています。
- ・子どもの特性をよく理解した上で指導計画を立てていただき、その時の状況に応じて臨機応変に対応していただき、ありがとうございます。
- ・毎日の積み重ねで、初めはできなくても今ではできるようになってきている。
- ・工夫されていると思うところ、こちらの意見で動いてくださるところ、多々あると思います。
- ・要所要所で親の意見を聞いて、要望を取り入れながら指導してくださいます。
- ・取り組めることの幅がせまい自分の子どもが、なかなか飛び出しがちになるなあとは感じます。
- ・授業内容が個別で何をしているのか分からない。
- ・(5)に関して、その子に合った勉強を教えてください。少しずつスキルアップの授業をしてほしい。
- ・個別の指導計画は保護者の願いが反映されているとは言い切れない部分もあったので、もっと話し合いの機会がもてたらよかったですと思います。

【職員】

- ・授業内容について子どもたちの願いに添った活動ができず、教師主導になってしまうことがあり、改善していきたいと思う。
- ・日々の学習でのねらいや、子どもの成長、発達後の姿を見失わないようにしたい。
- ・生徒が無理なく取り組める活動を仕組んでいる。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・昨年度の学校評価の結果から、「個別の指導計画の活用」が課題として浮き彫りになった。今年度は、その結果を受け、学級や部内での個別の指導計画の検討期間を年歴に位置付け、職員で十分に検討する時間を設けて個別の指導計画に基づいた授業づくりを行うよう努めてきた。また、研究授業等の学習指導案の中でも、個別の指導計画の「年間の目標」と、「単元の目標」、「本時のねらい・支援」のつながりを吟味して記載してきた。これらの取組をしてきたことが、職員のA評価の増加と、C評価ゼロにつながってきたと考える。
- ・一方で、「本人・保護者の願いを十分に反映」という項目での保護者のA評価が下がり、コメントの中にも学校と十分に話し合えなかった旨の記述があった。今後、本人・保護者の願いを大事に位置付け、支援のあり方や児童生徒の育ちについて確かな評価ができるよう、個別の指導計画を有効に活用していきたい。また、日々の学習活動について、個別の指導計画に基づき、児童生徒にどのような育ちを期待し、何をねらいとして取り組んでいるか、個別の指導計画をツールとし、保護者への説明を丁寧に行っていきたい。

4 チーム支援

評価項目		A	B	C	D
(7)職員は、お子さんを理解し、特性に応じた支援をしている。	保護者	71%	29%	0%	0%
	職員	53	47	0	0
(8)部・学級の職員が連携して、児童生徒の支援に取り組んでいる。	保護者	57	36	7	0
	職員	63	37	0	0

【保護者】

- ・できていると思います。
- ・できそうなことは十分取り組んでいただいていると思います。
- ・連絡ノートや口頭で今日あったことを細かく伝えてくれるので、助かっています。
- ・授業参観日には確認できるので、今のところ問題ありません。
- ・子どもの性格を理解して、その子に合った接し方をいただいています。
- ・子どものことをよく理解して特性に応じた支援をしてくださっていると思います。
- ・連携して支援に取り組んでくださっていると思います。とても心強いです。
- ・朝の様子しか分かりませんが、担当の先生としか話す機会がない。先生が別の子どもを見ていると、誰に引き渡せばよいか分からず、待っていることがあります。誰でもいいので、教室に入った一人ついてもらえるとうれしい。
- ・先生方が考えてくださっているのは伝わりますが、先生と保護者の連携があまりうまくいっていない気がします。

【職員】

- ・子どもへの支援の仕方、保護者への対応の仕方など、細かい部分までクラスの先生方と相談し、共有できること、とてもありがたい。
- ・行動上の問題があった時に、その子の願いをつかみ、寄り添いながら作っていく方向が大切だと思う。
- ・生徒にとって無理のない活動を仕組んでいる。活動ありきでなく、生徒に合わせた活動をその都度考えている。
- ・情報共有、共通理解の上で支援しようとしているが、にじ組は児童9名、担任3名、支援員3名ととても大所帯で、情報共有が大変だった。やはり9名は多い。
- ・個別の学習に関することでは、発達段階や特性に応じた支援ができていると思う。生活単元学習などでは、それが分かりにくいと感じる。そのため学年が上がっても、今までと同じことを繰り返しているように見えるときがある。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・(7)の「子どもを理解し、特性に応じた支援」に関する評価は、保護者、職員ともに昨年度よりA評価が高くなった（保護者68%→71%、職員43%→53%）。また、(8)の職員の連携に関して、職員の評価は、昨年度よりA評価が高くなった（職員52%→63%）。これは、今年度より、毎朝、職員打ち合わせの時間を設け、職員が支援に必要な事柄を確実に共通理解した上で一日の活動を始めることができるようにしたことなどが、児童生徒理解やチーム支援により影響を及ぼしたと考える。
- ・一方で、職員の連携に関する保護者の評価は、A評価が減少しており、保護者のコメントの中でも、窓口職員以外の職員とのコミュニケーションの不足が指摘されている。本校は、「その学級の全職員で、学級の児童生徒全員を支援する」ことを大事にしたいと考え、担当を通年で固定せず、週ごとにローテーションしている。もう一度、「全職員で、全児童生徒の支援にあたる」原点に立ち返り、どの児童生徒の保護者の方とも職員が話ができるように努めていきたい。

5 保護者との連携

評価項目		A	B	C	D
(9) 職員とは、十分に連携でき、安心感・信頼感がある。	保護者	61%	32%	7%	0%
	職員	26	74	0	0
(10) 学校は、保護者の思いに寄り添い、誠意をもって応えている。	保護者	71	25	4	0
	職員	42	58	0	0

【保護者】

- ・家での出来事やちょっとした変化等、ささいなことでもしっかり話を聞いてくださり、そこから学校での様子につながり、次回はこうしてみようといった話に発展しています。
- ・家でのトラブル（誤食等）でも対応してもらいました。ありがとうございました。
- ・保護者が伝えたことに対して、すぐに行動に移してもらったり、反対に保護者では知らないことを毎日引き継ぎ、報告、提案していただいています。
- ・親の心配ごとや不安に思うことをよく聞いてくださり、解決策を一緒に考えていただけて助かります。
- ・子どものことで相談させていただいて本当にありがたいです。安心して相談できるし、信頼できる先生方で、子どものことで心配になり相談したとき、とても心強く支えていただいていることを実感しました。
- ・特定の先生としかほとんど話したことがありません。そのため、どうしても相談や聞きたいこと、伝えたいことを話す先生を限定してしまい、信頼する（頼る）先生が偏ってしまう。

【職員】

- ・保護者に合わせた寄り添い方があると感じた。
- ・毎日の連絡帳でのやりとり、送り、迎えの時のお話で、子どもの様子については情報共有されていると思う。
- ・なるべく顔を合わせてお話しできるよう心がけている。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・保護者との連携に関し、保護者の皆様からは温かいコメントをいただき、ありがたく思う。一方で、保護者と職員ともに、昨年度に比べ、A評価が減少し、B評価が増加している。保護者の「おおむねそう思う」というB評価が30%前後、「そう思にくい」というC評価が7%であることに思いを致し、十分ではなかった面の要因はどこにあるのか探り、より一層、丁寧な保護者との対応に努めたい。保護者と職員の信頼関係の上に、よりよい指導・支援が可能となるので、保護者の思いに寄り添った意見交換等をさらに大切に、保護者から信頼される職員集団をめざしたい。

6 地域連携

評価項目		A	B	C	D
(11) 支援会議を通して、福祉・医療機関や市町村などと連携し、保護者の相談やニーズに応え、計画的な支援を行っている。 例：福祉サービス、進路指導、個々の支援会議等々	保護者	64%	32%	4%	0%
	職員	58	37	5	0
(12) 学校からのおたよりなどで、学校の様子が伝わっている。	保護者	71	25	4	0
	職員	74	26	0	0

【保護者】

- ・支援会議を通して、参加者の方に子どもの情報を共有してもらい、今後の対応等のアドバイスをいただいています。保護者の立場として、いろいろな見方に気づけたり、勉強になります。おたよりはいつも楽しみにしています。連絡ノートも。
- ・細かい支援のポイントも少しずつ共有できたりアイデアをくださったりして、よい影響を受けています。
- ・毎日の支援の内容を書いていただいて、言葉数が少ない子どもでも内容が分かり、ありがたいです。
- ・おたよりの写真で様子が分かり、楽しみにしています。
- ・学校とデイサービスの共有、連携がよくとれていて、いろいろなことがスムーズです。日々の様子も学校からデイサービスに伝えていただいて、とてもありがたいです。
- ・困ったことがあればすぐに対応していただいているので、問題ないです。支援会議という時間を作っていただき、情報共有でき、とてもすごいことだと思います。
- ・定期的に会議を開催していただき、ありがとうございます。関係者の方々と共通理解し合えて、思いを同じにいただけるので、安心できます。
- ・支援会議で支援してくださり本当に助かっています。情報交換や子どもの支援の方向性などを話し合えてよかったと思います。お忙しいところお時間いただき、ありがとうございました。

【職員】

- ・ 支援会議の記録を職員に回覧しているが、それぞれの立場から情報共有がされていると思った。
- ・ 支援会議でなるべく家庭の困りごとを吸い上げて話題に挙げ、一緒に考えられるようにしている。
- ・ 自立の先生方に支援会議で話し合う方向性、話し合う内容を明確にしてもらい、ありがたい。
- ・ 担任と各関係機関が直接つながっていないので、方向性が曖昧になってしまうことがある。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・ 支援会議については、保護者、職員ともにA評価が昨年より増加した（保護者54%→64%、職員43%→58%）。これは、昨年度の学校評価で、支援会議に関する評価が、他の評価項目に比べ落ち込んでいたことから、支援会議のアンケートを取り、保護者のニーズに応じた支援会議となるよう努めてきたことが、改善につながってきていると考える。引き続き、保護者に寄り添い、児童生徒のよりよい生活を実現するための一助となる支援会議となるよう努力していきたい。
- ・ 学校からのおたよりについて「分かりやすい」「楽しみにしている」等の声をいただき、励みになるが、昨年度に比べ、保護者、職員ともにA評価が減少している。C「そう思いにくい」も4%あったことから、保護者に、どんな内容を、どのように発信するか、情報発信の内容や方法についての質を高めたい。

7 交流および共同学習

評価項目		A	B	C	D
(13)須坂小学校や常盤中学校および居住地校との交流は、コロナ禍で限られた中ではあったが、お互いを知り合う機会となっている。	保護者	44%	48%	8%	0%
	職員	37	47	16	0

【保護者】

- ・ お互いが知り合う交流になっていると思います。
- ・ 須坂小は3年生の時、支援学校の校歌を音楽会で歌ってくれたり、運動会では一緒に参加してほしい旨、声をかけてくれたり、とても感謝しています。
- ・ 居住地校との交流をととても楽しみにしていますし、お互い刺激し合ってとても充実した時間を過ごせていて、ありがたいです。
- ・ 低学年の小学生と学校以外で出会った時に、声をかけてもらうことがあります。（スーパーや公園などで）
- ・ イベントも分散が多かったのも、なかなか難しかったと思います。
- ・ なかなかこちらの希望が伝わっていなかったようでしたが、伝えられたと思うので、これからはより充実したものになると期待しています。
- ・ コロナで副学籍交流がほとんどできず残念でした。
- ・ コロナ禍なので、交流の制限があるのは仕方ないかと思っています。

【職員】

- ・ 今年度の運動会は、須坂小とともに創り上げることができたことはとてもよかったと思う。
- ・ 差別をなくす市民大集会で、本校と須坂小から、とてもよい発信ができた。両校がともに創り上げる交流、日常的な交流ができ、両校の子どもたちが育っていると感じる。
- ・ 須坂小とは今年度、お互いを知り合う機会となっている場面が多くなってきた。
- ・ こまめに連絡を取り合って知り合う機会を持つようにしている。
- ・ お互いにできる範囲で続けられたらよいと思う。
- ・ 常盤中に関しては交流の機会が減っていると感じている。
- ・ 常盤中との交流は、双方の教育課程の違いから予定が合わず、訪問しても会わず終いになっている。
- ・ コロナもあって直接的な関わりが持てない分、常盤中との交流は、大分弱くなっている。
- ・ 常盤中との交流については、コロナ禍で交流ができない。お互いのスケジュールなども行事がコロナで変更になったりと思うようにできていない。

【成果と課題・今後に向けて】

- ・ 須坂小学校との交流については、同じ校舎に両校がともにあるよさを生かし、両校の職員が協力し合って教育活動にあたる場面が増えてきている。運動会や音楽会、なかよしタイムに中庭で行ったレインボーコンサートなどで、両校の児童のよい姿が多く見られた。また、これまでの両校の交流のよさを市民大集会で発信し、多くの市民の方から好評をいただくことができた。今後も、支援学校・須坂小双方の児童がともに育つ交流を続け、その様子を積極的に地域へ発信していきたい。
- ・ 常盤中学校とは、コロナ禍で交流の機会が減り、思うように交流活動に取り組みない状況が続いている。どのような交流を行うことが、両校の生徒の育ちにつながるのか、交流の計画を見直し、本校の教育目標にある「仲間とともに地域で心豊かに生きる子ども」の具現の場となる交流をめざしたい。
- ・ 副学籍校交流については、保護者や相手校と一人一人の事前の打ち合わせを丁寧に行い、本人や保護者の願いが反映される交流となるよう努めたい。

8 学校への意見・要望等

【保護者】

- ・子どもに合った支援がされていて助かります。
- ・日々子どもに優しく根気よく指導していただきありがとうございます。先生方に体調不良等で欠員が出ると、新たな先生の確保も厳しく、元気いっぱい子どもたちを見守るのは大変だろうなど常々思っています。保護者の私も、何か協力できることがあれば…。働いているのでいつもとはいきませんが。夏のプールボランティアのように、必要などきは見守りお手伝いボランティアを募ってはいいいのではないかと思います。保育園でも保育参加（一日先生）がありました。子どもの様子を見られるし、そんなことがあってもいいのかなと思います。
- ・毎週、学校の様子のプリント作成をしなくてもいいのでは。何週間毎でもよい。
- ・保護者が知りたいことが伝わるプリントを願っています。
- ・授業参観を土曜日にするのはどうでしょう。案として。
- ・先生方の日々の業務はありがたく、子どもたちによく考えて接していただけていると思う反面、その業務であまり余裕がなく、伝えていただきたいことや考えてもらえたら助かることが少し足りない気がしています。

【職員】

- ・行事計画、参加の仕方については、保護者への丁寧な説明を大事にしていきたい。また、どの子ども居場所があり支援の方法があることが前提となる行事となるようにしたい。
- ・現在行われている支援の意図が保護者に伝わるように、保護者と丁寧に関わっていきたい。なぜそれを行っているのか、許しているのか、禁止（なくしたい）としているのか、決めたことを保護者と共有し、支援にあたりたい。

【評価を踏まえた今後の学校運営の方向】

- ・保護者の皆様から、学校運営に関し、昨年に引き続き肯定的な評価を多くいただいた。ありがたく受け止め、今後の励みにするとともに、A評価にせずB評価とした保護者や、C評価とした保護者の思いに寄り添いたい。
- ・特に、個別の指導計画の活用（本人・保護者の願いの反映、学習のねらいや評価〔育ち及び支援に関する評価〕の共有）、チーム支援・保護者との連携（どの職員も保護者と十分にコミュニケーションを取る）、交流および共同学習（常盤中との交流・副学籍校交流の充実）について、保護者や職員から寄せられた意見を参考としながら、児童生徒の確かな育ちにつながるかという視点で具体的な取組を明確にし、今後もさらに改善を図っていきたい。

ご協力ありがとうございました。

保護者の皆様からいただいた評価・ご意見を参考にし、3学期、校務分掌係会や、来年度の教育計画作成係会、部会、職員会議等で、よりよい取組の方向を検討してまいります。また、特に、日常生活の支援のあり方（「自分から、自分で、せいっぱい」が実現する支援になっているか）や、日々の学習活動の内容（児童生徒がさらに伸びる内容となっているか）、保護者の皆様との連携（窓口担当でなくとも、学級の職員誰もが学級の児童生徒のことで保護者の皆様と話ができるようになっていくか。保護者の皆様から知りたいことを伝える内容となっているか）などについては、一人一人の職員が現在の取組や自分の在り様を見直し、早速、改善に努めます。さらにお気づきのことなどありましたら、お気軽に学校へお伝えください。

今後も、子どもたちのよりよい生活づくりに向け、保護者の皆様と学校職員とで心をつなぐ取り組みをまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

須坂市立須坂支援学校
担当（教頭）水倉美和子
電話 026-245-0082